

(一財) 鳥取県サッカー協会

4種登録チーム各位

令和2年8月吉日  
一般財団法人鳥取県サッカー協会  
第4種委員長 小林 慎太郎

【 ジャージ(シャツ)の裾出しについて (通達) 】

平素より本協会事業にご理解賜り、誠にありがとうございます。

2012.02.28 ジャージ(シャツ)の裾出しについての通達が公益財団法人 日本サッカー協会(JFA)から出されています。

鳥取県の4種としましては、ジャージ(シャツ)の裾出しが体感温度の低下につながるの実証があり、近年の高温時における大会で熱中症対策の1つとして、この実証を取り組み小学生の安全を確保することにしました。

つきましては、今後の大会においてジャージ(シャツ)の裾出し有無についての適用については以下のように取り扱うこととします。

- WBGT 2.5 以下の気温時における鳥取県大会（地区予選含む）及びリーグ戦については、従来通り小学生らしい服装としてジャージ(シャツ)の裾出しはしない。
- WBGT 2.5 以上の高温時における鳥取県大会（地区予選含む）及びリーグ戦については、熱中症対策としてジャージ(シャツ)の裾出しを許可する。

気温 (参考)	暑さ指数 (WBGT)	熱中症予防運動指針	
35°C以上	31°C以上	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合には中止すべき。
31~35°C	28~31°C	厳重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。 10~20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。 暑さに弱い人※は運動を軽減または中止。
28~31°C	25~28°C	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。 激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
24~28°C	21~25°C	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24°C未満	21°C未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

※暑さに弱い人：体力の低い人、肥満の人や暑さに慣れていない人など  
(公財) 日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」(2019)より

※中国大会以上の大会においては適用外。

以上